

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成27年3月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の暮らしを大切にグループホームでの暮らしが安心して快適なものとなるよう医療や地域、ご家族様と連携し支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人のそよ風憲章(基本理念・介護サービス基本方針・品質方針)を毎朝唱和し、法人の理念に則りホームでの生活が安心、快適になるように支援している。今年度も前年度に引き続き、併設する他のユニットと合同で餅つき大会やフリママーケットを開催し、近隣に前もって通知することで近隣からの来場者や家族の参加につなげることができた。また、ボランティア(大正琴・健康体操・バイオリン・三味線)の方を受け入れ、事業所の地域とのつながりや交流の度合いが年々増加している。今後に向けては、定期的に開催している運営推進会議に地域住民の方の参加を促す事で、地域との連携がより深まっていくと考える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後、可能な限り皆で事業所理念を唱和している。	法人のそよ風憲章(基本理念・介護サービス基本方針・品質方針)を毎朝唱和し、管理者と職員はそれらを共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フリーマーケット、餅つき大会に近隣の方々にも参加して頂いたりボランティアの受け入れを行なっている。	併設する他のユニットや施設と合同で開催した餅つき大会やフリーマーケットには、近隣に前もって通知し、近隣からの来場者や家族の参加につなげている。また、ボランティア(大正琴・健康体操・バイオリン・三味線)の受入を実施し、事業所の地域とのつながりや交流の度合いが増加している。	今後に向けては地域行事への参加も増やしていく事で、さらに地域とのつながりが深まっていく事考える。今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員初任者研修者による職場体験の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し入居者家族、地域包括支援センター職員、介護相談員、民生委員に参加して頂いている。会議ではヒヤリハット事故報告、地域との交流報告等を行ない意見、要望を考慮しサービスの向上に努めている	運営推進会議には 地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、家族(出席は輪番制)の出席を受け、2カ月に一度開催している。運営状況等を定期的に報告し、質疑応答や話し合いを通じての意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に近隣や自治会の方々にも参加を促し、より多くの意見を収集し、サービス向上に活かしていくように取り組まれることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との連携に関しては定期的に入居状況等を報告し必要に応じて連携が図れる体制を築いている。又2ヶ月に一度、介護相談員の来所もあり相談員とも連携を図っている。	市町村担当者とは日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えたり、また、運営推進会議の議事録を送付している。運営上疑問が生じた際には、確認を取りながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の利用者について心身の状態を正確にアセスメントし身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追求している。又ミーティング時、勉強会を開き不適切な対応に繋がらないよう取り組んでいる。	ミーティング時に「身体拘束の廃止について」話し合い、管理者及び職員は身体拘束廃止について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要な方にはセンサーを使用しているが家族に同意を取り、適切な対応を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援内容の見直しをして虐待防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が居る為、職員は資料を見て学ぶ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	センター長、管理者にて細かい説明を行ない契約となる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見交換や月2回介護相談員に來所して頂いている。又、面会時に職員は声かけをし、要望等を伺える時間を作り運営に繋げる。	家族からの意見、要望を聞く機会を來訪の際(運営推進会への出席、イベントの開催)、電話連絡時、ケアプラン説明時に設け、それらを運営に反映させている。また介護相談員にも來訪頂き、利用者からの意見や要望を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の離職率を下げる為、施設長、管理者と定期的面談を行ったり職員間スムーズに連携し合えるよう明るい職場づくりを心がけている。	管理者は定期的な面談を実施して運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に管理者は職員に声をかけ、ミーティング時にそれらの意見や提案を交換し、吟味して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職場との面談を実施し現在の評価と課題を本人と話し合い又、現在の不安や不満を吸い上げる機会を設けている。雇用期間の更新時には実績により給与のベースアップを図りモチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはベテラン職員がフォローに付き当施設独自のプログラムにより無理なく業務の修得に努め解らない点はその場で解決する仕組みで行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他施設管理者等と情報を共有する機会を月一回、設けており勉強会も取り組んでいる。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家庭訪問を行ないご本人の話を伺い願いや思い不安等、十分に理解した上で安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センターを見学して頂き詳しい説明をさせて頂くと共に家族の方が困っている事や要望等を伺い理解し受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を基に現状で何が一番必要なのを見極め相談状況を確認し話し合う事で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずにお互いが共に支えあえる関係づくりを心がけている又、利用者から教えて頂く場面を多く持てるような声かけの工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや願いに寄り添いながら利用者の日々の様子や出来事をきめ細やく伝える事で情報共有に努め一緒に本人を支えていく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の床屋を利用されお盆、お彼岸、正月にはご家族とお墓参りに行かれる。友人の面会等を通じ交友関係が途切れないよう支援している。	友人の来訪や近隣の理美容に外出、家族と一緒に墓参りへ出かけるまで、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族等の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員間で情報連携し共有した上で利用者が孤立せず一緒に生活する仲間となっていけるよう職員が間に入り対応、調整役となり支援している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今、現在退居された方との連絡は取っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの願い不安を把握し利用者が話される内容や表情から真意を確認する工夫をしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は、日常的な会話から引き出したり、家族の方にも意向等を確認している。その把握が困難な場合は、本人本位に検討し、実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴やライフスタイル個性や価値観を把握した上で家族にも本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え共に情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し職員間で状態、情報を確認し合い申し送りや記録をすることで個々の有する力など現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の視点からではなく利用者の現状や課題の抽出後、利用者、家族、職員の意見を収集しケアプランを作成し家族の要望や変化に応じて見直している。	アセスメント結果を踏まえ、ケアプランの原案を策定し、担当者会議において職員、家族、本人の意向を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを策定している。ケアプランの内容については3ヶ月毎にモニタリングを行い、達成状況を確認している。	今後に向けては担当者会議に主治医や看護師等の意見等についても盛り込み、他職種連携でケアプランを作成できると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル、個々のケース記録用紙に日々の様子、状態等を記入し職員間で共有、連携し合いながら介護計画に添ったケアが出来ているかを見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の求めるニーズに応じて必要な時に必要なサービス(往診・訪問歯科・訪問理美容等)を臨機応変に提供している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と共に近隣のスーパーへ買い物やレストランへ外出に出掛けたり美容を利用するなど地域生活の継続をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応で受診する場合には本人の生活状況報告書を渡し状態等の変化を報告した上で受診先の担当医にお持ち頂いている。往診では管理者対応で行ない家族へ情報提供している。	利用者が適切な医療を受けられるように提携先医療機関による往診(2回/月)がある。また担当医とは看護師を通じて24時間連絡が取れる体制を整えている。他のかかりつけ医を継続して受診している方には、家族の協力を得て適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時にはセンター看護師、往診先のドクターに報告し指示を受けている。後の経過報告も行ないアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りお見舞いに伺い退院前には後のケアについて担当医より家族と管理者が話しを伺い退院後も安心して暮らせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化がみられる場合は家族と話し合いを行ない同意書を交わし事業所で出来ること医療の必要性が生じた場合の対応等を十分に説明しながら方針を共有し家族、主治医との連携を深め対応している。	契約時に「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」や「看取り看護・介護に同意書」を交わし、早い段階から利用者・家族と話し合いを行い、事業所でできること、医療の必要性が生じた場合の対応等を十分に説明しながら方針を共有し、重度化が見られる場合は、家族や主治医と連携を深め対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットミーティングの際、勉強会の時間を設け研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え備蓄の保管場所は確保出来た。備蓄に関しては毎月少しずつ購入している。年2回消防訓練を実施し1回は消防署立ち会いのもと実施している。	4月に地震想定での避難訓練、12月に火災想定で通報・避難・消火訓練を消防署立会いのもとで実施している。災害に備え、飲料水や米、乾パンを備蓄用保管庫に数日分確保している。	災害発生時において家族にどのように利用者の安否を報告していくか、メールや緊急伝言ダイヤルの活用も視野に入れ連絡体制の構築が進むことに期待したい。

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を尊重し命令口調や自尊心を傷つける言葉づかいをしないよう徹底している。	利用者一人ひとりのライフスタイルや価値観を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけ、居室への出入りにも配慮している。万一、不適切な言葉かけや接遇を見かけた管理者や職員はその都度注意することを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別外出を計画するに当たり本人の意向を伺い興味ある事を引き出す工夫を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが出来る時には希望に合わせて買い物、散歩、レク提供を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替え入浴時の着替えは基本的に本人の意向で決めている。職員は見守りや支援が必要な時に応じて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る範囲の中で盛り付けや片付け等をして頂いている。食事を楽しめる様、出前、外食を行なっている。	食事の準備では、利用者にも声を掛け、宅配で届いた食材の仕分けや盛り付けや配膳、食器洗い等に関わることができるように支援している。食事を楽しむ工夫としては、行事食や月1回の全国から選んだ郷土料理を開催するなど工夫を凝らして実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態(常食・刻み食・ペースト)の提供をし一日の摂取量を記録に残して問題点等ミーティングで話し合いより良い支援を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケア実施している。義歯の方は洗浄剤を使用している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを全職員が把握し定時の声かけ誘導によりトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄チェック表(グループホーム体温表)によりチェックし、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、牛乳やヨーグルトの提供など十分な水分補給を実施し身体を動かし腸の働きをよくするよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の健康チェックを行ない一人ひとりの入浴状況を把握しながら週2~3回入浴出来るよう支援している。	一人ひとりの入浴状況を把握しながら、週3回入浴できるよう支援している。また、入浴を楽しむことができるように音楽を流したり、入浴剤を活用したり、季節のゆず湯や菖蒲湯を用意するなど工夫し、入浴中は職員が介助につき安全面にも配慮して個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、その日の状況に応じて対応している。日中30分~1時間の休憩時間を取り入れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、効能など全職員が把握するよう心がけている。又、服薬変更時には職員間連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割、楽しみを全職員が把握し状況に応じて本人自ら楽しみ喜びを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応にて買い物や外食へ出掛ける。	日常的な外出支援としては、個別にホーム周辺の散歩に出かけたり、嗜好品の買い物やおやつ外食に利用者と一緒に出かけている。普段行けないような場所には家族と協力しながら外出できるように支援している。	

やちよ台ケアセンターそよ風(のぞみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛けた際には自分の財布からお金を出す事で地域社会の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙の返事を書くことが困難になった利用者には希望を伺い電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の行事の写真を掲示したり季節に合わせて装飾を工夫している。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮され、利用者の日々の様子や行事での様子をとらえた写真を掲示したり、行事や季節に合わせて装飾を工夫する等、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合った居場所となるスペースを考えた中で一人になれ、くつろげるスペースをテーブル、ソファの配置で工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具など使い慣れた思い出のものを持ち込まれ居心地良く暮らせるよう工夫している。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、なかには自分で描いた絵や写真など飾り、居室内において居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険防止対策など工夫している。又、不安を追求し自立支援につなげている。		